



第20号

2015.3

青少年赤十字

賛助ひろしま

青少年赤十字賛助奉仕団信条

1. 青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
1. 赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
1. 志を同じくする人々と手を取りあい、研鑽に努める。

発行 広島県青少年赤十字賛助奉仕団 〒730-0052 広島市中区千田町2-5-64
事務局 日本赤十字社広島県支部 TEL (082) 545-5011

平成二十六年全国青少年赤十字 賛助奉仕団協議会総会並びに創立 五十周年記念事業（報告）

委員長 日高敬司

平成二十六年七月三・四日、日本赤十字社本社において、全国四十七都道府県委員長、日赤本社関係者七十余名が参加して開催されました。

○第一日

一 開会式、写真撮影

二 総会

①平成二十五年度事業、会計・監査報告

②役員改選

③平成二十六年度事業計画・予算案

三 五十周年記念事業

①記念式典

祝辞 近衛忠輝（日本赤十字社社長、国際赤十字・赤新月社連盟会長）他

②記念講演

演題「原常民考」

講師 樋口浩康（佐賀県賛助奉仕団顧問）

（詳細については、「創立五十周年記念誌」と「いとしぎ」に掲載）

○第二日

一 全体討議

二 研修

講演「青少年赤十字防災教育事業『まもるいのち 広める防災』について」

講師 日本赤十字社総務局組織ボランティア課

三 ブロック会

四 閉会式

平成二十六年度中・四国ブロック 青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議 会・研修会（報告）

副委員長 山中 章敬

十月九日・十日に愛媛文教会館（松山市祝谷町）で青少年赤十字賛助奉仕団五ブロックの研修会が三十四名（広島県五名）の参加で開催され①賛助奉仕団の活性化 ②青少年赤十字加盟促進 ③青少年赤十字指導者協議会との連携④青少年赤十字加盟校へのサポートなどを課題として情報交換、意見交換、講演などが行われました。

「いとしぎ」を通して青少年赤十字の活性化・発展に努めていることや賛助奉仕団の活動の「見える化」を広報誌などで進めたことなど賛助奉仕団がどのような活動をしたら赤十字思想の普及ができるか、団員の増強ができるかなどの課題に、各県から情報をいただき参考になりました。二日目は加盟校での「いとしぎ」の植樹式や「いとしぎ」の見学、ロシア兵墓地の見学、坂の上の雲ミュージアム見学、懇親会では松山の伝統芸能である扇を多数使った舞踊『伊予万歳』を堪能しました。愛媛県の特徴ある素晴らしいプログラムで進行されました。

○第一日

一 開会行事

二 連絡協議会

三 講演「出逢った仲間たち」

愛媛県支部 加地宏明

○第二日

★松山市立湯築小学校「いとすぎ」植樹祭

体育館での青少年赤十字集会を見学の校庭に「いとすぎ」の苗の植樹を行った。

★潮見小学校「いとすぎ」等見学

★ロシア兵墓地の見学

★坂の上の雲ミュージアム見学

★坊ちゃん列車乗車

二日間愛媛県賛助奉仕団の特色あるプログラムで有意義な研修ができこころより感謝しております。

愛媛県賛助奉仕団で作成された「赤十字思想を普及するための教材」(CD)、「いとすぎ」の苗をお土産にいただきありがとうございました。(国泰寺中学校、宮島工業高校に植樹させていただきました。)

平成二十六年度青少年赤十字賛助奉仕団総会(報告)

幹事 采谷宣子

今年度の総会は、会の運営をより機能的にするため年度当初の四月二十二日に日赤県支部で開催しました。

一 事業及び会計報告について

・昨年度の事業、会計報告・会計監査が承認され、本年度の事業計画及び予算が決定しました。

・新入団員紹介… 寺田宣文、光川かおるの両氏が新しく入会されました。

・昨年度退団者二名、ご逝去四名(別記訃報連絡)の報告、四月当初の団員数四二名。

三 今年度行事日程について

旅行など親睦を深めるための活動を考えたい。とりあえず、中四国ブロック大会にできるだけ多くの参加者を募り旅行計画としたい。

四 「いとすぎ植樹」プロジェクトの推進

いとすぎの種から苗を育て、県内の学校に植樹する活動を推進する。

五 その他

・トレーニングセンター、および指導者協議会、各研修会、県大会への参加協力を推進する

「いとすぎ植樹プロジェクト」活動報告

委員長 日高敬司

赤十字発祥の地ソルフェリーノの丘に聳えている「いとすぎ」を学校の校庭に植樹し青少年赤十字活動を支援していこうという意図のもとに計画しました。これは中四国ブロック会議でも提案され実行することとしております。本年度のブロック会議は愛媛県で行われましたが、愛媛県では既に百余校に実施しているということです。ブロック会議の際、本県に二本の苗木をいただきましたので、早速本県でも植樹いたしました。また、現在団員にて苗木を育てているところでもありますので、順次植樹をしていきたいと考えています。

○植樹第一号 広島市立国泰寺中学校

青少年赤十字県大会が十一月十五日に当該校で開催されました。それに合わせて、事前に学校に植樹の依頼をして実施しました。当日は生徒会の生徒の皆さん十数人、校長先生、担当の先生、県大会に臨席された県教委、市教委の先生、指導者協議会の会長さん、賛助奉仕団員六名が揃って植



樹となり大変賑やかで盛大な植樹祭になりました。

○植樹第二号 広島県立宮島工業高等学校

五十年近く活動している宮島工業高校で十二月十日に賛助会員七名が訪問しました。当日は流田校長先生、顧問の近藤先生や多くの先生方の臨席のもと、JRC部の生徒の皆さん二十数名が昼食休憩時間に集まっていたきました。代表に感動的な挨拶をしていただきました。なお、当校は再来年度全国高等学校総合文化祭奉仕・JRC部門の事務局校でもあり、生徒の皆さんは張り切っていました。



青少年赤十字活動への想い

顧問 横田二郎

賛助奉仕団の一員に加えていただいていた以来、地域奉仕団の一員としての立場をも斟酌しながら、青少年赤十字活動について幾つかの想いを抱いて来ました。

まずその一つは、「地域におけるJRC加盟校相互間の連携、協働」の態勢作りについてです。情報交換から、「話し合える場」の設定へと期待したい。共通のテーマのもと、「協働への途を模索できれば」との展開を想定しています。

その二は、「赤十字社の地区組織や地域奉仕団との連携、協働」です。赤十字社県支部指導による研修会でのテーマとして取り上げられているが、具体的な課題への十分な協議に基づいて、お互いの意識の進化と実践を期待しています。

その三つ目は、「JRCについての温故知新の役割・賛助奉仕団」です。嘗ての盛んであった赤十字活動への想いを耳にすることもあります。また、新しい視点でも最近の活動についても学ぶ機会もあります。お互い想いを介して語り合うこと（例…「JRCの今昔を語る集い」）も賛助奉仕団の役割ではないでしょうか。こうした想いを抱きながらも、自分の非力から、机上の論に終わりがかねない怖れを感じています。

そうした中で、非力ながら「東広島市青少年赤十字展」を実施し続けているが、加盟校の児童・生徒さんの参加等、幾つかの課題を抱えてはいます。

今年は、十一月一日・二日、東広島運動公園体

育館で開催された「第二十四回東広島市生涯学習フェスティバル」に参加、『東広島赤十字展（東広島市赤十字奉仕団主催）』と共に『東広島市青少年赤十字展（広島県青少年赤十字賛助奉仕団共催）』を実施しました。『赤十字展』では、「結成二十周年を迎えた東広島市赤十字奉仕団」についての写真展示をはじめ「赤十字の誕生・日本赤十字社の活動」等について具体的な解説展示を行い、広く市民の「赤十字の人道精神」への理解に供しました。

『青少年赤十字展』では、「青少年赤十字標章旗」のもと、「青少年赤十字の目標」を示し、加盟校三校（西志和小、河内高、豊田高）からの「活動報告」、永年加盟活動表彰受賞校（西志和小、造賀小、豊田高）の紹介等の展示とともに、「人道法の探求」など赤十字活動についてのDVD放映、青少年赤十字関係の資料配付も行い、青少年赤十字の活動への理解が一般市民の皆さんに深まるよう努めました。

これらの展示・活動への理解については、充分ではなかったとも感じているが、奉仕団の日常的な身近な活動を通じて、赤十字の人道精神や理念について、一般市民の理解を広め深めていきたいと思っています。

当日の参加者数は、一日二二、四〇〇名、二日・一三、八〇〇名。なお、毎回のことですが、東広島市教育委員会、日赤県支部、日赤血液センター、日赤東広島市地区（市社会福祉課内）から、広報・資料提供等についてご協力いただいたことを申し添え、謝意を表したいと思います。

(実践報告)

青少年赤十字活動に想う

広島県立河内高等学校長 川端一弘

社会全体のモラルの低下や社会体験・自然体験の不足など、社会の変化に起因して、以前と比べて、最近の子供たちは、生命尊重の心や人間関係を形成する力が十分に育まれていないという指摘がある。

「いじめ」に象徴されるように、相手を思いやるということとは逆向きの言動が見られたり、人間関係が上手く構築できずに集団から離れていたりといった状況が見られたりすることは非常に残念である。

こうした中、青少年赤十字が「命と健康を大切にする（健康・安全）」、「人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する（奉仕）」、「広く世界の青少年を尻、仲良く助け合う精神を養う（国際理解・親善）」という実践目標及び「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げて活動されていることは、青少年の育成の観点から、非常に意義深く、将来にわたって大切にしていかねばならないと考える。

さて、青少年赤十字の加盟校である本校のJRC部は、時に生徒会執行部の協力も得ながら活動を行っているが、生徒数が約二百人の小規模であるがゆえに部員数は決して多くはない。三年生が退いた夏以降は、四名の一年生が地道に活動を続けている。四名の中にはオーブンスクールの時にJRC部の存在を知り、高校入学後は入部したい

と考えていたという者もいれば、入学後に友だちに誘われて入部した者もいるが、全員が「何か社会に貢献できることをしたい」と思って入部した」という動機は共通している。

少し話はそれるが、本校の生徒全員を対象に実施田アンケート結果によると、「人には親切にしたい」が九七％、「人の役に立つ人間になりたい」が九四％という高い割合を示しており、ほとんどの生徒が内在的な自己効力感を有していることが伺えた。一方で、「人が困っているときは進んで助けている」が七五％であった。気持ちは持っているものの、中々行動に移すまでには至らないというのは、一歩踏み出す勇気がなかった、あるいは、そうした機会やきっかけに恵まれなかったからなのかも知れない。青少年赤十字の活動は、そうした高校生の背中を押してやるのにも有効であると考ええる。

JRC部の活動に戻るが、校外では、地域行事における募金活動への協力であったり、休日を中心とした活動である。校内では、花壇の整備や池の清掃など、精力的に活動をしている姿を見てきた。夏休み中も、「草花に水をやらなければ枯れてしまつては可哀そう」と毎日登校して水を撒き、九月には「池の水が濁つていては魚が可哀相だし、観賞もできない」と言い池清掃に取り組んだ。三日もかかったが、この間、運動部の生徒や三年生の有志生徒も多数加わり、協働できたことは、部員の心の支えとなった。

十一月に入り、校舎南側の植え込みの一角を耕し、花壇作りをしている部員の姿を見かけて声をかけると、球根を植えるのだと言う。春が来て、綺麗な花で新入生を迎えたいと考えているらしい。

ある日、JRCの部員を校長室に呼んで「どんな思いを持って、JRC部の活動に取り組んでいるのか」と愚問を發してみた。ある生徒は「表だって目立つことはしたくないが、蔭で学校に貢献したい」と答え、ある生徒は「自分たちには直接会うことがない、目の前にいない人を助けることができる活動に参加できて素晴らしい」と答え、また、別な生徒は「ボランティア活動は、個人で行うには限界があるけれど、グループで行うと広がりがあり、多くの仲間と活動できていることが魅力的である」と答えた。青少年赤十字が主催するリーダー養成研修に参加し、同じ思いを共有する他校の生徒と意見を交わす中で大きな刺激を受けたのであろう。

今後、情報化・国際化はますます進展し、変化に富んだ時代においても、こうした、奉仕の精神、人を思いやる気持ちの大切さは普遍的に価値あるものであると考える。他校の取組に負けないようにと、模索しながら活動している生徒の姿を微笑ましく思う今日この頃である。

「五七五作句のお手伝い」

副委員長 河戸靖子

安芸高田市立郷野小学校から「五七五の作句の体験をPTAの親子体験学習として実施したい」というご意向で訪問したのは九月頃であった。

実施一か月前に事前協議に訪問するとグラウンドは芝生で、校庭には花が咲き、玄関の大きな水槽には淡水魚が沢山泳いでいる、自然を大切にされ

ている学校とわかる。廊下は児童が磨いて黒光りがしている。ロビー正面に青少年赤十字のしるしと態度目標が大きく掲げられている。そう、郷野小学校は戦前からJRC加盟校だったのだ。さらに、毛利元就の居城の麓でもありJRCの目標を三本の矢をデザイン化して表現してある。来客も児童も理解しやすい。

イベントについての先生方のお話を伺うと、全校児童が保護者と一枚の五七五の作句を完成させる。つまり俳句・川柳の垣根を払い、それに絵を付けてひとつの作品を完成させたいとのことである。独創的な企画で私としてもどのようになるか楽しみである。

開会行事の中で、校長先生のご挨拶や教頭先生の保護者の方への教育指針の中で「感謝と奉仕の心を持つ児童をどう育てるか」、また「青少年赤十字の態度目標『気づき、考え、実行する』にこだわって実践を重ねることが本校の教育目標達成への近道と考えて実践している」と説明があった。さて、当日は教材を持参し体育館で準備し、絵の教材には、「郷野」の里で見る野の花、野菜、果物、川魚等を全員の数より多く皿に盛り、自由に選べるように並べた。

一年から六年まで一堂に会しての活動なので、私はできるだけ説明を短かく、教材で季節を感じ取り、それをどのように表現するかを作品例を示して活動に入った。

児童は持参した郷土の教材の「ヤマメ、鮎、かたつむり、蟹、栗」などを触って歓声をあげたり、指折り数えて作句したり、中には腹ばいになって作品を書いた。

一般に作句は作句の時間、絵は絵の時間と別々

の時間に行うのが普通だが、今回のように作句して画を描き添えるのは珍しく、特に低学年は大はしゃぎであった。親子で語らいながら指折りして俳句をする楽しそうな親子や、児童が実物を見ながら絵を描くのをそつと見守る母親など、親子のふれあいが見られて微笑ましかった。一人ずつ見て声かけして歩いた。最後に全校鑑賞が始まると、一つひとつに拍手がわき学校全体が一つになった。そして最後に童謡「ふるさと」を合唱して体験活動は終了した。

その後、PTA役員の反省会があり、「こういう自分の郷土を見つめる文化的活動は大変参考になった」という意見が多かったと学校からお便りをいただいた。

府中中学校を訪問して

副委員長 山中章敬

府中中学校（生徒数六三二名）は、安芸郡府中町にあり広島駅から東へバスで一五分ぐらいの交通の便利なところにあります。府中中学校は、昭和二三年頃の加盟で県内では最も青少年赤十字の歴史のある学校の一つです。現在も活発に活動をしている学校です。私は、四月の登録式に、青少年赤十字賛助奉仕団員として赤十字の話をするために訪問しました。

学校に入った時の生徒の気持ちのよい挨拶は素晴らしい、体育館で行われた登録式は、生徒会執行部の進行で整然と行われました。話を聴く態度など立派なものでした。さすが加盟校と頼もしく

思ったものです。

活動は活発で次のような活動をされていました。

- ・「JRC登録式」「あいさつ運動」
- ・「クリーン キャンペーン」

学区内の小中高（府中北小・府中小・府中・安芸府中高）合同で、また地域の方と公園の清掃を行っている。

- ・トイレ清掃

掃除に学ぶ会の指導で校内のトイレ掃除を行う

- ・募金活動

赤い羽根募金

東日本大震災募金

- ・フラワーフェスティバル

- ・赤十字パレード参加（吹奏楽部）

- ・青少年赤十字広島県大会参加

今年は、八月にあった広島土砂災害募金も行われました。（9月1日～3日）

府中中学校は、校長先生はじめ先生方の指導のもとで、青少年赤十字の活動が積極的に行われていました。生徒会が全校生徒に呼びかけ行われるボランティア清掃などの参加者も年々増えているそうで「奉仕の心」や「他を思いやる心」が確実に育っているように思われました。

八月に発生した広島土砂災害に対しても、被災され困っている人のことなどを思い、いち早く九月一日から募金活動を始めることなど積極的に活動されていることが分かりました。また、安芸郡中学校の生徒会が交流し安芸郡全体の中学校が募金活動を行うなど、他地域の加盟校にも参考になることと思います。

十一月に開催された赤十字広島県大会での府中

中学校の活動報告の中で、「私たちの学んだ広島県に少しでも役にたつことができたら嬉しいです」という生徒の言葉がありました。その言葉の中に、府中中学校の青少年赤十字の充実ぶりと素晴らしさを感じました。これからのますますの活躍を期待します。

幼児の心に人道の種をまく

副委員長 大木 昭

当地区は広島市とはいえ中山間地にあり、人口八千の町である。中学校一、小学校四、保育園三（うち市立が二園、福祉法人が一）である。JRC加盟は小学校三校、保育園二園である。

賛助奉仕団の一員として何とか青少年赤十字の普及発展に努力している。その一端を報告してご指導を仰ぎたい。先ず中学校であるが数年前加盟していたが、現在は未加盟校となっている。小学校は四校とも加盟しているが情報を届けてもJRCの指導には手が回らないようである。そのため、市立高南保育園と市立三田保育園に関らせてもらっているのもその一端を報告してご指導を仰ぎたい。一番近い高南保育園での関りについて報告する。定員二十数名の小規模保育園である。園児の人数と保育士スタッフの人数が同じ位という大変恵まれた保育園である。数度呼んでいただくのでお邪魔している

☆四月二十一日

平和学習 年中・年長組

赤十字の旗 ソルフエリーの戦いの様子など絵を見せながら話して聞かせる

☆六月そばパーティー

保護者 老人クラブ 近所

☆八月一日 平和公園碑めぐり（恒例）

高南保育園・三田・川内保育園合同で大型バスを利用して移動

・慰霊碑参拝

・原爆の子の像に折鶴を捧げる

・被爆梧桐の前で梧桐の歌を歌う

・マルセルジュノウ博士顕彰碑前でお話を聞く

☆九月二十日 高南甫危険運動会

☆十月 焼き芋パーティー

☆十一月 高南保育園生活発表会

☆十二月一日 高南地区社協ひとり暮らし高齢者の会参加

以上が今年度お手伝いした概略である。就学前の幼児ではあるが一生の生き方のありようを決める基礎を作る大切な時期である。赤十字の優しい心を具体的な行動を通して教えておくことは大切なことと思う。

随想

顧問 平越幸男

平成七年にJRC広島県指導者協議会会長を退任してから、申し訳ないことに、私はJRCとは年会費を納める以外にすっかり縁が切れていました。その事実をもつてしても、私はJRCにかかわる資格を喪失していたと言えます。

私は、平成二十六年三月末に長年勤めた専門学校を退職しました。その半年後に、賛助奉仕団の役員の方からのお誘いを受けて、平成二十六年十一月十五日（土）に国泰寺中学校で開催された広島県大会に十九年振りに参加させていただきました。そこで目にしたのは、当時と少しも変わらないJRCの活動報告でした。時が流れ、人が代わってもJRCの活動は変わらず続いていたことに深い感動を覚えました。

当時、指導者として活動しておられた方々が今は賛助奉仕団員として裏からJRCを支えておられる様子を、懐かしさとともに後ろめたさを感じました。

私が会長を務めさせていただいた頃は、国は「自己教育力」の育成の必要性を強調していましたが、私は、JRCの活動こそその具現化に直接つながるものだと思信し、勤務した高校の生徒諸君への挨拶や講話の中で何度もJRCの実践目標や態度目標を引用させていただいたものです。高校を定年退職し、再就職した専門学校においても同じようにJRCの精神をベースにして学生諸君に話をさせてもらいました。私がJRCの活動で学んだことが私自身のバックボーンになっていたと言えます。

現在、国も広島県も少子化、グローバル化に対応した教育改革を進めています。行き着くところは、JRCが長年一貫して実践してきた方向と一致していると思います。理想を具現化するのには、実践の場である教育の現場しかありません。

賛助奉仕団の一員となつて

団員 寺田宣文

三十八年間の教職を退いて昨年春に賛助奉仕団に入団しました。

省みれば、私の青少年赤十字活動は大学時代に始まっています。私が大阪の大学入学と同時に下宿した「一想苑」は大学自治会の同好会として青少年赤十字の活動の拠点になっていました。私も運動部のバレー部に没頭する傍ら、下宿するみんなと一緒に青少年赤十字活動にも参加していました。当時、下宿は家族でもありませんでした。今でも「一想苑会」と称して毎年、同窓会を開いている嬉しい存在なのです。大学生による「学奉」、看護学院生による「看奉」、社会人による「青奉」と合同活動をいつも一緒にやっていました。日赤大阪府支部の一室に集まっていた合同活動の計画と実践は実に楽しい活動でした。青奉四協定大会の準備や開催に意欲を燃やし、また、たまたま広島県大和町白龍湖畔の青少年スポーツセンターで開催された三泊四日の西部青奉幹部講習会にも参加しました。

青少年赤十字活動の再開は、教職に就いて九年前から賀茂郡大和町の小学校からです。町内全ての小学校が加盟しており、県トレセンも地元青少年スポーツセンターが会場とあって、町内先生方と一緒に小学校での活動に取り組みました。また、JRCを通じて県内の多くの先生方と知り合いになることができました。

しかし、私のJRCへの参加はこの十数年間途絶えてしまいました。多くの人が継続して活動し

ているのに、声をかけてもらってもなかなか参加できないでいました。このたび、賛助奉仕団に入団できて大変うれしく思っています。今までの反省にたつて、これからは皆さんと共に自分にできることを積極的にやっていきたいと思っています。

赤十字と地域防災会 赤十字の原則を地域防災会に取り 入れてく

副委員長 野田崇

廿日市市大野地域に、自治会組織「大野一区」があります。廿日市大野一区は、約二、〇〇〇世帯五、〇〇〇人の住民がいる大きな自治会組織です。退職・再任用終了時の二〇一一年に副区長就任の要請を受け、自治会の役員をすることになりました。

就任時、三・一一東日本大震災もあって「地域防災会」組織化が議論されていました。

「地域防災会」の重要性は共通認識があるものの、具体的な組織化・行動化が進んでいませんでした。一区役員会は、二〇一二年「地域防災会発足」を決定し「生命と財産を守る取組み」の具体化に取り組むことになりました。二〇一二年度末役員改選で一二名中七名の役員が替わることになりました。

発足を決定した「地域防災会」の設立責任者を私が引き受けることになりました。「地域防災会」を立ち上げるためには、「人」が重要です。廿日

市大野一区に参加し活動している、万年青会・女性会・民生委員・体育推進協議会・更正保護女性会に、地域防災会役員の推薦を依頼し、組織化することにしました。

「地域防災会」の構想計画・基本方針立案にあたっては、赤十字の原則を基本にして文章化し役員会に提案しました。活動計画・防災会規約は広島県防災鑑の発行した手引きを参考に、大野一区の状況を考慮して作成し役員会の了解を得ました。構想計画・基本方針立案の柱は、「人道」にしました。いついかなる時にも人間の尊重をもとめる人道の理念と、地域防災の「自助」「共助」の行動に一貫性があるからです。防災活動は「生命尊重理念」の無ければ成り立ちません。比例・公平・中立は行動計画案の中に盛り込みました。

二〇一二年六月、大野一区を四地域に分割し防災会を発足することが出来ました。二〇一三年度から、具体的な防災活動が始まりました。防災を意識しない防災活動を計画し提案しました。

区民運動会を総合防災訓練と位置づけ避難訓練・防災リレー・ハイゼックスによる非常食体験（昼食四〇〇食昼食の提供）。夏祭り盆踊り大会における給食給水訓練。敬老会前日に救出救護訓練として心肺蘇生・AED訓練。餅つき大会後の一人暮らしの家庭への餅配布を安否確認訓練とするなど、区行事と防災活動をリンク・連動させながら「防災意識の啓蒙」をしています。二〇一四年は、子どもの命を地域として守るために、小中学校との連携を始めました。

活動を具体化するほど、「公助」を担当する行制当局の対応に不安が生じています。防災に関して窓口ごとが連携していないからです。明らかに

なつた課題を行制当局や住民の皆さんに提示しつつ、より良い防災活動が展開できるよう努力をしていきたいと思ひます。人の命を守るために。

平成二十六年青少年赤十字加盟概況（加盟校数・加盟率）

平成25年度青少年赤十字加盟校数 (単位:園、所、校)			
校種	全国	広島県	
幼稚園	814	6	
保育園	771	21	
小学校	6,555	126	
中学校	3,213	74	
高等学校	1,841	37	
特別支援校	100	6	
合計	13,294	270	

平成25年度青少年赤十字加盟率(幼稚園、保育園は学校数から除く)			
	学校数(校)	加盟校数(校)	加盟率
全国	37,991	11,709	30.8%
広島県	953	243	25.5%

※学校数は文部科学省発表『平成25年度学校基本調査(確定値)』による。
 ※加盟校数は、「平成25年度青少年赤十字の概況」から掲載

平成二十六年度賛助奉仕団役員

委員長

日高 敬司

副委員長

幹事

監事

顧問

射場利久男 大木 昭 河戸 靖子 野田 崇 山中 章敬 采谷 宣子 吉丸 朝美 惠美 勇作 蔭山 龍児 光本 凉子 曾山 和彦 田中 博 塚本 晃史 平越 幸男 水野 善親 横田 二郎

計報連絡

南部實郎氏 (平成二十五年十二月)
 舩永保徳氏 (平成二十六年一月)
 門田脩三氏 (平成二十六年九月)
 謹んでご冥福をお祈り致します。

編集後記

今年度は、愛媛県での中四国ブロック大会へ六名参加することができました。また、「いとすぎ」の苗をいただき、国泰寺中学校と宮島工業高校で植樹祭を執り行うことができました。両校とも活

動が活発で、植樹祭を通してとても充実した活動になったと思ひます。生徒たちのJRC活動をこのようにして支えていくことの大切さを改めて実感します。

一方で、団員高齢化が一段と進み、これまでに退団の意向を受けた人は六名、ご逝去三名、連絡が取れない人二名と寂しい状況の中で、新しく二名の方が入団され、活気を注いでくださいました。これからも団員の結束をはかり、いとすぎプロジェクトを始めとする、活動や研修に邁進したいと思ひます。皆様の活動を機関紙にもどんどんお寄せいただきますようよろしくお願い致します。

編集委員

横田二郎、大木昭、蔭山龍児、曾山和彦、日高敬司、河戸靖子、采谷宣子、寺田宣文、平越幸男、惠美勇作

